



採血後の止血について

臨床検査部
大高 めぐみ

採血の後に、出血して衣類を汚してしまったり、採血の痕が青く腫れてしまったという患者様もいらっしゃるといいます。これは、採血部位を押える止血時間が短かかったり、採血後すぐに採血した腕で重たい荷物など持つ事により起きています。

「止血」とは傷口からの出血を止めることです。採血をすると、採血針によって血管に約1mmの傷ができます。そのため、きちんと止血をしなければ出血します。血管についた傷口から血液が流れ出すと、血小板や血管組織の破壊によって生じた物質が傷口を塞ごうとします。採血後に絆創膏の上から指でしっかり押えていただくことにより、血管の収縮を促進し血液が止まりやすくなります。

採血後、採血部位を指で押えることを圧迫止血といいます。この圧迫止血を採血後速やかに行わなければ、血液は血管についた傷口から血管の外に流れ出てしまいます。皮膚の傷口が塞がっていれば、目に見える出血はしませんが、皮下では血液が溜まったり、拡散したりしています。このような場合は採血部位が青黒く膨らんだり、痛みを伴う原因となります。このような理由から、採血後は採血部位をしっかり圧迫止血するようお願いいたします。

圧迫止血する時間は5分程度です。ただし、血液をサラサラにするお薬を飲まれている方は10分以上の圧迫止血が必要です。当院では自分で押えることが困難な方や、手荷物がたくさんあり、押えられない場合は止血バンドとタイマーをお貸しています。止血バンドを巻いた状態でご休憩いただき、使用後の止血バンドとタイマーは採血室入口横の回収箱にご返却をお願いいたします。

圧迫止血の注意点としては、

- ①肘の位置から採血した場合、肘を曲げて押えないこと。
- ②採血部位を揉まないこと。

肘を曲げると採血した位置と圧迫すべき位置がずれてしまい、出血が広がってしまう原因になります。また、採血部位を揉んでしまうと青く腫れあがる原因になるばかりでなく、鈍痛を伴うことにもなります。もし、青く腫れあがってしまった場合でも1~2週間で自然に体内で吸収されて治りますが、ご心配な場合は採血室スタッフにお声掛けください。

採血後は、絆創膏の中央、白い部分を5分以上、指でしっかり押さえて止血してください。なお絆創膏は採血後1時間程度でお剥がし下さい。



指での圧迫止血の方法